

三木露風シンポジウム

再発見

# 三木露風・母かた・妻なか

令和2年度より日本学術振興会の科研費の助成を受けて、三木露風の未公開資料の調査をたつの市の霞城館、宍粟市、三鷹市の協力を得て行ってきました。

その成果として、例えば「三木露風と『山崎新聞』」、「三木露風と宮沢賢治の交流」、「三木露風とトライピストのクリスマス」など、新資料の公開と基礎的研究を報告しました。

本シンポジウムは、キリスト教文学や三木露風研究の第一線の研究者と共に、三木露風・母碧川かた・妻なかについての新資料をもとにした研究成果の一端を社会に還元することが目的です。

露風は童謡「赤とんぼ」の作詞者として知られていますが、露風作品の読者は少なくなっています。また露風に関する研究も、減少しています。

露風に関する多くの資料は、三木豊晴氏により寄贈されて生誕の地であるたつの市の霞城館と昭和3（1928）年から永住した三鷹市に所蔵されています。また昭和45（1970）年11月に三木なか夫人から寄贈された資料は、日本近代文学館に「三木露風文庫」として保存されています。令和3（2021）年には、大正9（1920）年5月から大正13（1924）年6月まで住んだ北斗市のトライピスト修道院に、創設125年記念事業により露風の展示室が新設されました。

今回、このような状況の中で、新たな視点により再発見した露風・母かた・妻なかの魅力について報告します。

そして、シンポジウムを露風の故郷たつの市において開催できることを大変な喜びとしています。

時間割

13:30～13:40

13:40～14:05

14:05～14:30

14:30～14:55

15:15～15:55

15:55～16:00

開会趣旨挨拶

山根道公  
ノートルダム清心女子大学教授

和田典子  
元姫路大学教授

近藤健史  
元日本大学教授

報告①  
「カトリック詩人  
三木露風の誕生—  
日本キリスト教文学史  
への新たな位置づけ」

報告②  
「新資料研究  
三木露風と母かたの書  
簡から」

報告③  
「再発見  
露風を支えた愛妻モニ  
カとその歌」

参加者との質疑応答

閉会挨拶

ご案内

碧川かた生誕150年・没後60年記念特別展

◆◆◆ 「赤とんぼの母」物語 ◆◆◆

霞城館：10月8日（土）～12月4日（日）

※休館日 月曜日（10月10日は開館）10月11日(火)・12日(水)・11月4日(金)・24日(木)

入場料：一般200円／小学生～大学生・65歳以上100円